

2021(令和 3)年度 南九州大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検・評価体制における意見等

●学内からの視点

(1) プログラムの履修・修得状況

“ユニバーサルパスポート”を活用して、履修登録、出欠管理、成績管理などを行っており、本教育プログラムを構成する授業科目の履修状況および単位取得状況を当ポータルサイトで確認できる。授業評価アンケートの設問ごとの平均値および自由記述欄の学生の意見を集約して授業担当教員にフィードバックしている。さらに、“ユニバーサルパスポート”から授業科目ごとに学生が提出した課題の提出状況の把握が実施できる体制となっている。

(2) 学修成果

授業評価アンケートの項目において、学生の授業への取組に関する自己評価項目を設定している。「フレッシュマンセミナー」「フレッシュマンアワー」「キャリアデザイン」においては、学んだ内容の振り返りを授業時間内にさせることにより、学修成果を明確にしている。また、授業評価アンケートの結果を共有するとともに、担当教員にフィードバックすることにより、教育プログラムの評価・改善に活用している。受講生の習熟度については、授業評価アンケートの結果をもとに、全学科で同レベルに達していることを目指す。さらに、本教育プログラムの授業科目の GPA と他科目の GPA を比較し学修成果を確認する。IR・Dx 推進室では、各授業科目の成績評価の分布と「学生ごとの GPA 分布」の分析を行い、分析結果を共有し、改善等に生かす。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートを“ユニバーサルパスポート”を使用して、本教育プログラムの履修者全員に対して実施しており、学生の理解度を分析し、授業の評価・改善に活用している。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

現時点で後輩等他者への推奨の取組を実施していないが、令和 4(2022)年度から本教育プログラムの授業評価アンケートで他学生への推奨度について確認し、アンケート結果を“ユニバーサルパスポート”ですべての学生が閲覧できるように検討していく。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムの授業は、一部を除いて必修科目となっている。選択科目については、積極的な受講を推奨している。令和 5 年度入学生よりすべて必修科目とする予定である。

●学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本教育プログラムを履修した卒業生は現時点では輩出していないが、修了者の学修成果が各学科の卒業生の就職先において生かされているかについては、就職課と IR・Dx 推進室の連携により明確にしていく。卒業生が就職した企業等の評価については、今後意見聴取をするなどして把握していく。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

産業界等の有識者を含めた外部評価委員による本学の自己点検評価に関する外部評価を定期的に実施しており、本教育プログラムに関する意見をいただく予定である。この外部の視点からも教育プログラムの内容・手法等への改善の参考にする。また、地域の企業と連携した教育研究を実施しており、産業界からの視点で得られた提言をもとに授業内容の評価・改善を行っていく。

●数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

モデルカリキュラム（リテラシーレベル）の中で、大学の学びの情報社会変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）等、データ・AI利活用における研究動向について、わかりやすい事例等を示しながら講義を実施している。

●内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業評価アンケートの回答結果を参考にしながら、授業の内容と水準を維持・向上するとともに、学生がより理解しやすい授業方法について検討していく。また、年度ごとに各学科および大学全体で作成する教学点検・評価計画で自己判定を行うとともに、改善・向上方策を具体的に示し、本教育プログラムの内容に関する点検を実施し、授業内容の水準の維持・向上に繋げていく。